

2023 年度版

# AIDS 知ろう館通信

～HIV・AIDS を取り巻く状況について～



としま ななまる



としま ななまる

レッドリボンは、HIV/AIDS と共に生きる  
人々への理解と支援のシンボルです。

2023 年 9 月改定  
豊島区池袋保健所

# 目次

1. HIV/AIDS は今…世界・日本、そして東京の現状	1
(1) 世界の HIV 感染者数、AIDS 関連疾患死亡者数	1
(2) 日本の HIV/AIDS の現状	2
① 新規 HIV 感染者数及び新規 AIDS 患者報告数	2
② 新規 HIV 感染者及び新規 AIDS 患者報告数の年齢	2
③ HIV 感染症治療について	3
(3) 東京都の HIV/AIDS 等の現状	4
① 新規の HIV 感染者数・新規 AIDS 患者報告数	4
② 新規の梅毒患者報告数	4
③ 東京都の HIV 検査・相談機関	5
④ 東京都のエイズ診療協力病院	5
2. 豊島区の HIV/AIDS の現状と対策	6
(1) 普及・啓発活動	6
① AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus (P15 参照)	6
② AIDS 知ろう館以外での啓発活動	7
③ エイズ予防教育	8
④ LGBTQ+ の理解・支援	8
(2) 相談・検査の状況 (2022 年度)	10
① HIV 検査の受検者数と陽性者数	10
② HIV /AIDS 電話相談状況	10
③ 性感染症検査の受検者数と陽性者数	11
④ HIV 感染者の療養支援	11
3. 参考資料	12
・ AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus	12

(※) 「鬼子母神」は「鬼」の上のツノがない字体だが、本文中では「鬼」の文字を使用している。

# 1. HIV/AIDS は今…世界・日本、そして東京の現状



世界に目を向けると、新たに HIV に感染する人は減少傾向にはありますが、治療・経済状況、セクシュアリティ、職業等による様々なギャップが存在すること、COVID-19 のリスクが HIV/AIDS 制圧をさらに困難にしています。

## (1) 世界の HIV 感染者数、AIDS 関連疾患死亡者数

UNAIDS（国連合同エイズ計画）が発表した世界の HIV 感染者総数は 2022 年末現在 3,900 万人とされている。新たに感染した新規感染者の数は 130 万人（1998 年ピーク時：280 万人）、と世界全体では減少傾向だが、国や地域によって大きな差がある。AIDS 関連疾患による死亡者数は 63 万人（2004 年ピーク時 200 万人）で、抗 HIV 治療の普及により減少傾向である。（UNAIDS data 2023 より）

2021 年 6 月 8 日に開催された「エイズパンデミックに関する国連総会ハイレベル会合」は HIV とエイズに関する 2021 年政治宣言「不平等に終止符を打ち 2030 年のエイズ終結に向けた起動に戻る」を採択して、ターゲットの達成年を 2025 年に設定した。

世界の HIV 感染者（成人・子供）推計総数（2022 年現在）



参考：UNAIDSレポート『グローバルファクトシート2023』

### ○国際組織と主な活動

- ◆ 国連合同エイズ計画（UNAIDS）・・・統計や情報の収集、提言、広報
- ◆ 世界保健機関（WHO）・・・医学や公衆衛生の技術的な専門集団
- ◆ 世界エイズ・結核・マラリア対策基金・・・エイズ対策資金を調達・分配

## (2) 日本の HIV/AIDS の現状

### ① 新規 HIV 感染者数及び新規 AIDS 患者報告数

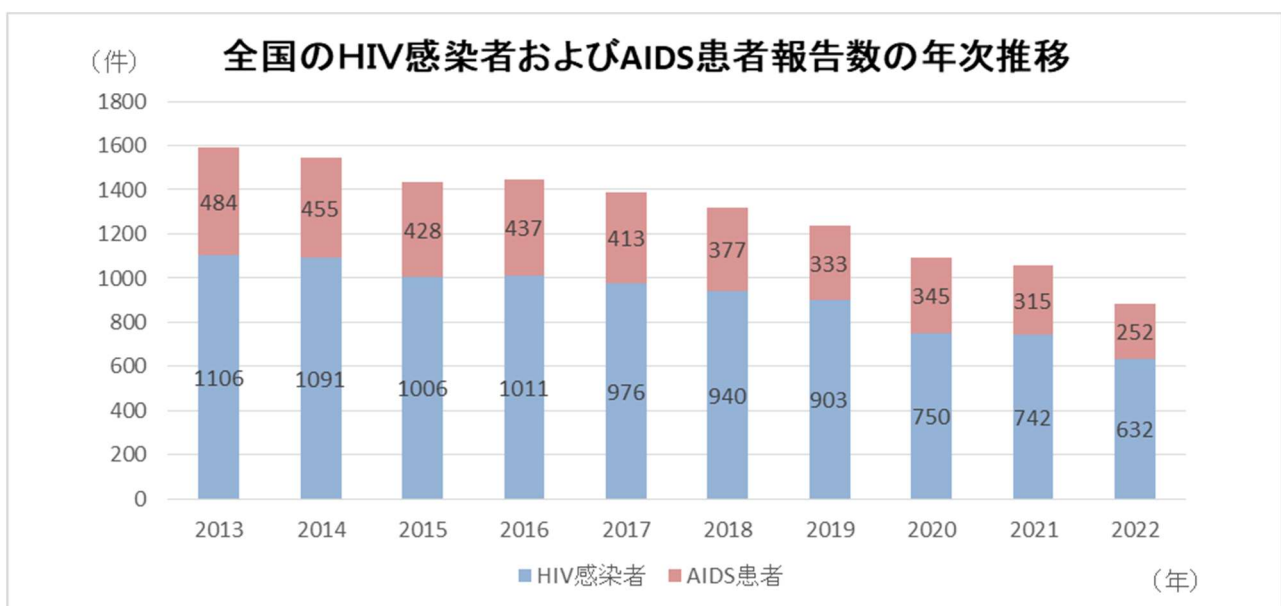
日本では、一日あたり、新たに約 2.4 人の HIV/AIDS 患者が報告されています。また、感染が発見された時、すでに AIDS を発症しているかたが 3 割弱もいます。



2022 年の新規報告数は、HIV 感染者 632 件、AIDS 患者 252 件で、合計 884 件であった。HIV 感染者と AIDS 患者の年間新規報告数はいずれも近年減少傾向となっており、2022 年の HIV 感染者年間新規報告数は、前年から 110 件減と大きく減少となった。AIDS 患者年間新規報告数は 2020 年に 4 年ぶりに前年より増加したが、翌年には再び前年より減少した。2022 年の HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた新規報告数に占める AIDS 患者の割合は 28.5%であった。

2022 年の保健所等における HIV 検査件数は 73,104 件（2019 年 142,260 件、2020 年 68,998 件、2021 年 58,172 件）であった。2020 年に前年の半数以下に減少したが、2022 年は前年よりも増加した。

国内で 2020 年 1 月に初めて報告された新型コロナウイルス感染症の流行に伴う検査機会の減少等の影響で、無症状感染者が診断に結び付いていない可能性に留意する必要がある。HIV 感染者、AIDS 患者の早期診断、早期治療のために検査の必要性を広報し、多様な場面での検査機会の提供、および自治体での検査体制をより充実させることが求められる。



2022 年末時点での累計 HIV 感染者及び AIDS 患者報告数の合計は、34,421 人です。

### ② 新規 HIV 感染者及び新規 AIDS 患者報告数の年齢

新規 HIV 感染者は、20 歳代、30 歳代が多く、新規 AIDS 患者は、40 歳代が最も多い。(参考：2023 年 8 月 18 日厚生労働省エイズ動向委員会より)

### ③ HIV 感染症治療について

HIV 感染症の治療は抗 HIV 薬の開発、そしてそれらの薬剤を用いた抗 HIV 療法（ART：antiretroviral therapy）によって、大きな進歩を遂げた。現在使用可能な抗 HIV 薬は単剤、合剤を合わせると 30 種類を超え、服薬が簡便な薬剤（1 日 1 回投与、少ない剤数、配合剤、食事の影響なし等）や耐性ウイルスにも有効な新薬の開発など、さまざまな改善が行われているが、いずれも HIV 複製を強力に抑制するものの、排除はできない。他方で、早期治療開始が良好な予後につながり、さらに二次感染の阻止に寄与することから、近年になって早期治療とすべての感染者への治療薬投与が強く推奨されるようになってきている。

治療の早期化、長期化が進む一方で、就労、福祉等の社会制度、人間関係、メンタルヘルス、患者の高齢化など、様々な課題が提起されている。

ここで HIV 感染症、治療についての  
基本をおさらいしましょう！



#### 【HIV 感染症治療の原則】

HIV 感染症治療の目標は、血液中のウイルス量（HIV RNA 量）を検出限界以下に抑え続けることです。そのために、治療は原則として 2 剤あるいは 3 剤以上の組み合わせで抗 HIV 療法（ART）が開始され、また、治療によって免疫機能のいくつかの指標が改善しても、治療を中止してはならないとされています。

#### 【早期治療の有効性】

早期に治療を開始することで、①免疫を高く維持できる、②HIV 増殖により発症・増悪する可能性のある心血管疾患や腎・肝疾患のリスクを減らせる、③HIV 関連疾患のリスクを減らせるなど、予後をより改善するとの知見が示されています。飲みやすく、副作用も少ない薬剤が増えたことなどの理由から、年々治療開始が早期化しています。また、早期治療は二次感染予防につながるということが明らかとなっています。

#### 【早期診断の重要性】

早期から治療を開始するためには、早期に診断されることが必要です。また、早期診断のためには、早期に検査を受けることが大切です。多くの方に、HIV 感染症に対する関心を持ち続け、検査を受けることの重要性を理解していただきたいです。

#### 【他の性感染症にも注意を！】

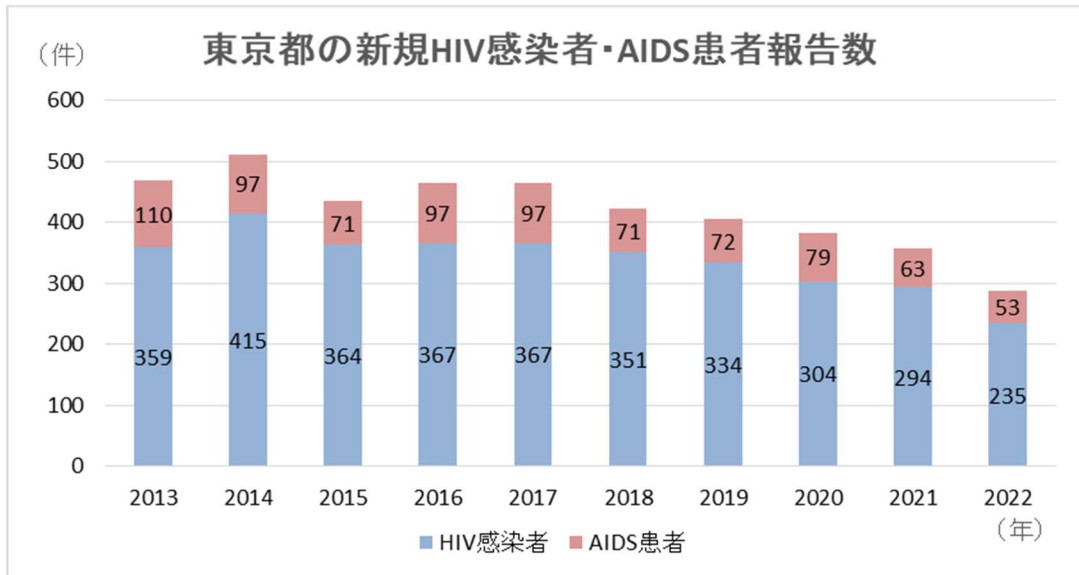
性感染症は、HIV 感染症も他の疾患も感染経路が同じです。したがって、他の性感染症にかかるということは、HIV 感染症のリスクもあるということです。クラミジア、梅毒、淋病等にかかったことがある場合は、HIV 感染症もチェックしましょう。その他、B 型肝炎や C 型肝炎も性感染症のひとつとされており、アメーバ赤痢や A 型肝炎等にも注意が必要です。

（参考：日本エイズ学会 HIV 感染症治療委員会：HIV 感染症「治療の手引き」第 26 版）

### (3) 東京都の HIV/AIDS 等の現状

#### ① 新規の HIV 感染者数・新規 AIDS 患者報告数

2022 年の東京都の新規 HIV 感染者及び AIDS 患者届出報告数は 288 件で、2013 年以降の 10 年間で最も低かった。

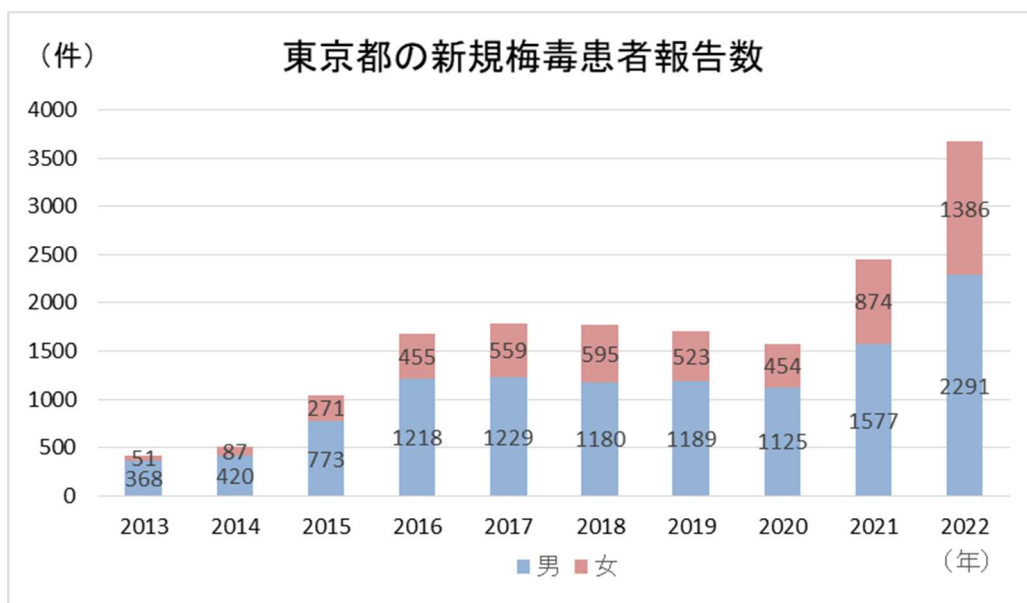


(参考：東京都 AIDS News Letter 2021 年 9 月臨時増刊号・東京都 HIV 検査情報 Web 2023 年 8 月時点)

#### ② 新規の梅毒患者報告数

2022 年の東京都の梅毒報告数は感染症法に基づく調査が始まって以来、最も多い 3,677 件で、前年より 1,226 件増と大きく増加した。2016 年以降高い報告数で推移している。

感染者は男性が多いが、2015 年以降は女性の感染者が急増しており、2022 年の女性の報告者数は過去最多であった。男性は 20～50 歳代に多く、女性は 20 歳代が多い。



(参考：東京都感染症情報センター 梅毒の流行状況)

### ③ 東京都の HIV 検査・相談機関

HIV 検査は、HIV に対する抗体等の有無を調べる検査で、都内の保健所（保健センター）と、「東京都新宿東口検査・相談室」、「東京都多摩地域検査・相談室」で匿名・無料で行っている。

また、多くの保健所では、HIV 検査と同時に希望者には他の性感染症検査も実施している。

#### ○東京都新宿東口検査・相談室

住所：新宿区歌舞伎町 2-46-3 SIL 新宿ビル 2 階

予約電話番号：050-3801-5309

（東京都 HIV 等検査予約センター）

予約 FAX 番号：03-6273-8532



#### ○東京都多摩地域検査・相談室

住所：立川市柴崎町 2 丁目 21 番 19 号

東京都立川福祉保健庁舎 2 階

予約電話番号：050-3801-5309

（東京都 HIV 等検査予約センター）



また、HIV・エイズについての相談を都内の保健所（保健センター）と「東京都 HIV/エイズ電話相談」で行っている。

#### ○東京都 HIV/エイズ電話相談

受付時間：月曜日から金曜日まで…正午から午後 9 時まで

土曜日、日曜日、祝日…午後 2 時から午後 5 時まで

電話番号：03-3227-3335

東京都 HIV 検査情報 web： <http://tokyo-kensa.jp>



### ④ 東京都のエイズ診療協力病院

東京都では、HIV 感染者・AIDS 患者に適切な医療を提供するために「エイズ診療拠点病院」と「エイズ診療連携病院」を総称して「エイズ診療協力病院」とし、エイズ診療体制の中核としている。

- ・「エイズ診療拠点病院」エイズに関する総合的かつ高度な医療を提供する病院
  - ・・・43 施設 (2023 年 8 月 1 日現在)
- ・「エイズ診療連携病院」エイズ診療拠点病院と連携して、精神科、小児科、産科、歯科等の専門分野における高度な医療を提供する病院
  - ・・・8 施設 (2023 年 8 月 1 日現在)

## 2. 豊島区の HIV/AIDS の現状と対策



AIDS 知ろう館を拠点に、学校や図書館に出向き、対象者に応じたツールを用いて、普及・啓発活動を行っています。

池袋保健所・長崎健康相談所では、HIV/AIDS 対策として、AIDS 知ろう館を中心とした普及啓発活動、学校に出向いてのエイズ予防教育、検査に来られた方を対象としたカウンセリングや、電話や来所での相談などを行っている。

また、障害福祉課では、HIV 感染者・AIDS 患者の療養支援として、身体障害者手帳の発行などを行っている。

### (1) 普及・啓発活動

#### ① AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus

「AIDS 知ろう館」は、1994 年 10 月、HIV/AIDS について学びたいという中学生・高校生からの要望に応え、「正しく知り」「考え」そして「行動」できるスペースとして誕生し、エイズ対策普及啓発活動の拠点として活動している。HIV/AIDS や性感染症について自由に学習することができ、図書・ビデオなどは一部を除き貸出もしている。

2015 年 11 月、AIDS 知ろう館内に、女性のライフプラン形成や若者全体への健康支援に関する情報発信スペース「鬼子母神 plus」を併設しリニューアルオープンした。

2019 年 10 月 池袋保健所仮移転に伴い、AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus も仮移転した。

【開館時間】平日 午前 9 時～午後 5 時（土日・祝日は休館）※事業で使用中は見学不可

【ふぉー・てぃー※1】不定期開催。ホームページに開催日掲載。

【利用できる資料】HIV/AIDS、性感染症に関する図書・ビデオ・パンフレット（一部除き貸出可）

【学習活動】グループでのビデオ学習などができる（要予約）

【来館者数】117 人 【見学団体数】 7 件 （2022 年度）

※1 ふぉー・てぃーとは

AIDS 知ろう館内に設置された、HIV/AIDS に関する情報ラウンジです。若者を中心としたすべての方が、いつでも HIV/AIDS とその周辺にある多くの課題について知るため、気軽に立ち寄って本や DVD、資料を見たり、オープンに話ができたりする場を作りたい！という願いをこめて、東京都が 2007 年度からスタートした事業です。どなたでもご利用いただける、地域に開かれたスペースです。

◆主な活動：個人に対して必要な情報の提供、予防啓発、館内イベントの開催、個人・団体における活動支援、地域と連携した行事など

ホームページ：<http://4tweb.jp/>



写真：AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus



## ② AIDS 知ろう館以外での啓発活動

### ○豊島区中央図書館特集展示

毎年、世界エイズデーである12月1日を挟んだ約1か月間、豊島区立中央図書館にて特集展示を行っている。

特集展示では、HIV/AIDSの最近の動向や啓発パンフレットの展示とともに関連図書を同時に配置し、ポスターや資料を見ながら直接本を手にとれるようになっており、閲覧や貸し出しを行っている。



写真：2020年度 豊島区中央図書館特集展示

### ○ふぉー・てい主催 エイズフェスにブースを出展（2019年度、2022年度）

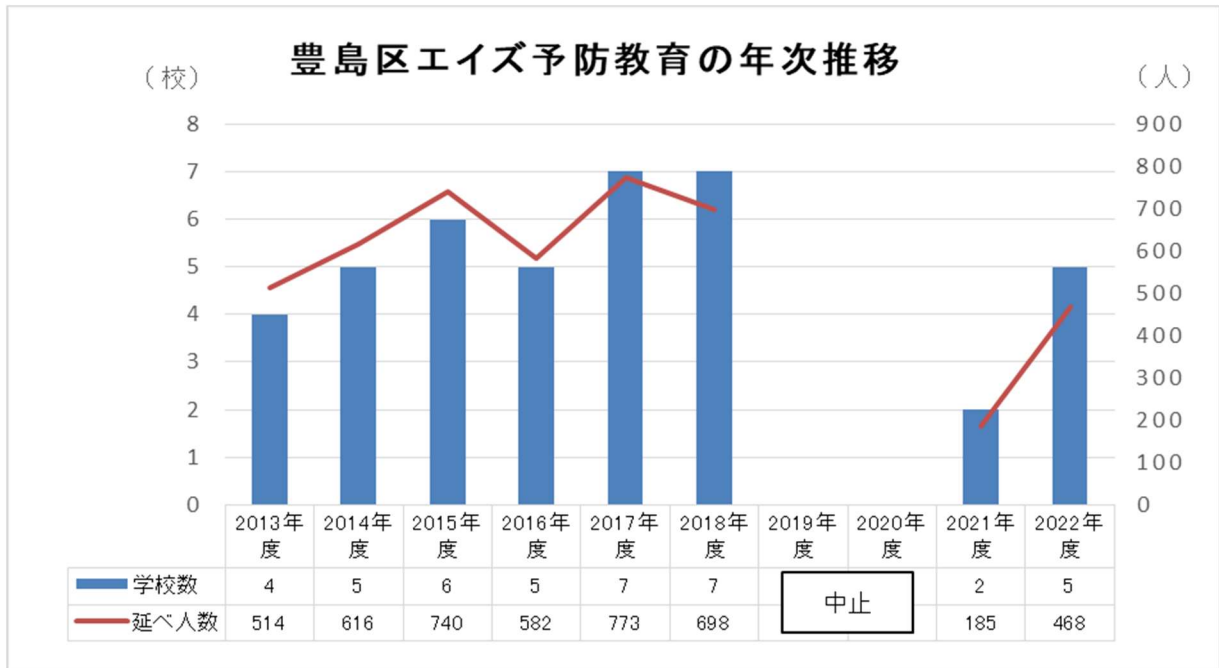
池袋エイズフェスは、若者向けエイズ予防啓発活動を行っているユース団体などが、ダンスやバンドなどのステージパフォーマンスをしたり、講演会が行われたり、HIV/AIDSについて学ぶことができるお祭りである。池袋保健所も例年ブースを出展している。



写真：2019年度 池袋エイズフェス

### ③ エイズ予防教育

豊島区では、学校保健と連携しながら、HIV/AIDS や性感染症に関する健康教育を中学校で実施している。（2019、2020 年度は新型コロナウイルスの影響で中止）



年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
校数	4中学校	5中学校	6中学校	5中学校	7中学校	7中学校	中止	中止	2中学校	5中学校

### ④ LGBTQ+の理解・支援

<LGBTQ+とは？>

性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称の1つであり、Lesbian（レズビアン、女性同性愛者）、Gay（ゲイ、男性同性愛者）、Bisexual（バイセクシュアル、両性愛者）、Transgender（トランスジェンダー、性自認が出生時に割り当てられた性別と異なる人）、（Questioning/Queer（クエスチョニング/クイア）の頭文字をとった言葉である。Qを表すQuestioning（クエスチョニング）は、自分の性のあり方について、わからない、迷っている、決めたくない人等を表す言葉で、Queer（クイア）は、元々風変わりな、奇妙なという意味で同性愛者を侮辱する言葉であったものが、当事者が前向きな意味で使い始めたため性的マイノリティを包括する言葉として使われている。最後の「+」は、LGBTQ以外にも多様な性のあり方を包括できるようにしている。

電通ダイバーシティ・ラボの「LGBTQ+調査 2020」によると、LGBTQ+を自認する人（異性愛者であり、生まれた時に割り当てられた性と性自認が一致すると答えた方以外）は日本全体の8.9%にあたる。「LGBT」という言葉の浸透率は、2018年調査の68.5%から上昇し80.1%となり、一般化したといえるレベルまで浸透した。しかし、「L・G・B・T」以外の多様なセクシュアリティ（Q+）についての認識度はいまだ低く、更なる理解促進が待たれる。

同性パートナーシップ条例の制定をした区や、社会的影響力のある人物のLGBTであることの公言などにより、徐々に社会の理解が進んできた反面、差別や偏見は依然としてなくなるという現状もある。

<レインボーフラッグとは？>

1970年代、サンフランシスコのゲイ解放運動で生まれた。すべての色を含み多様性を表す虹をシンボルとし、LGBTだけでなく「人間の多様性を守る」という思いが込められている。

<豊島区での取り組み>

2019年4月1日よりパートナーシップ制度（パートナーシップの届出に対し、一方又は双方が多様な性自認・性的指向の2人が、互いを人生の伴侶とし、日常の生活において、経済的又は物理的かつ精神的に相互に協力し合うことを約した関係にあることを、区長が確認の上、パートナーシップ届を受理したことを証明するためのパートナーシップ届受理証明書を交付する制度）が開始された。多様な性自認・性的指向の人々の困難を人権課題とし、豊島区男女共同参画推進条例に位置づけ、条例の表記は「男女」を「すべての人」に変更した。

保健所ではLGBTQ+への理解・支援を進める取り組みとして、以下を行っている。

- ・AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus にLGBTQ+コーナーを設置。
- ・若年者向け健診案内通知での周知：健診案内通知（25・30・35歳に発送）に同封している「メンタルヘルスケア相談窓口」のリーフレットに、デザインを盛り込んでいる。
- ・中学校エイズ予防教育での周知  
LGBTQ+への理解を促すためのスライドを組み込んでいる。



<AIDS 知ろう館 LGBTQ+コーナー>

「Rainbow Flag は、LGBTQ+（多様な性のあり方）への理解と支援のシンボルです。」と記載



<メンタルヘルスケア相談窓口リーフレット>



<エイズ予防教育スライド>

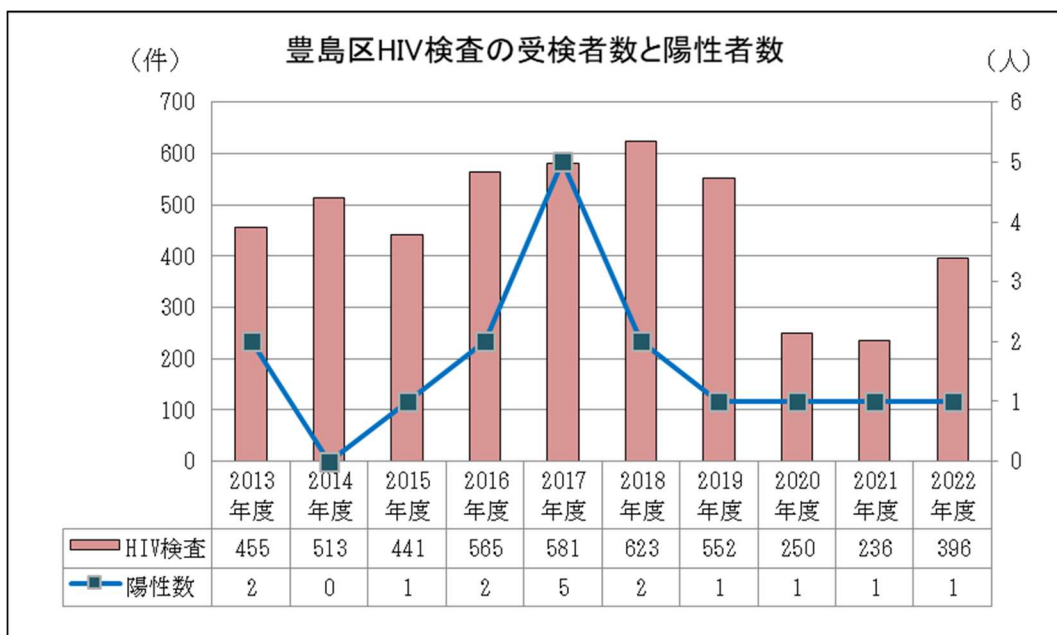
## (2) 相談・検査の状況 (2022年度) 豊島区の保健衛生「事業概要」より

豊島区では1987年からHIV抗体検査を行い、2007年からHIV即日(迅速)検査を開始した。2022年度は、通常検査11回を行った。2017年度からは携帯サイト予約システムを実施している。

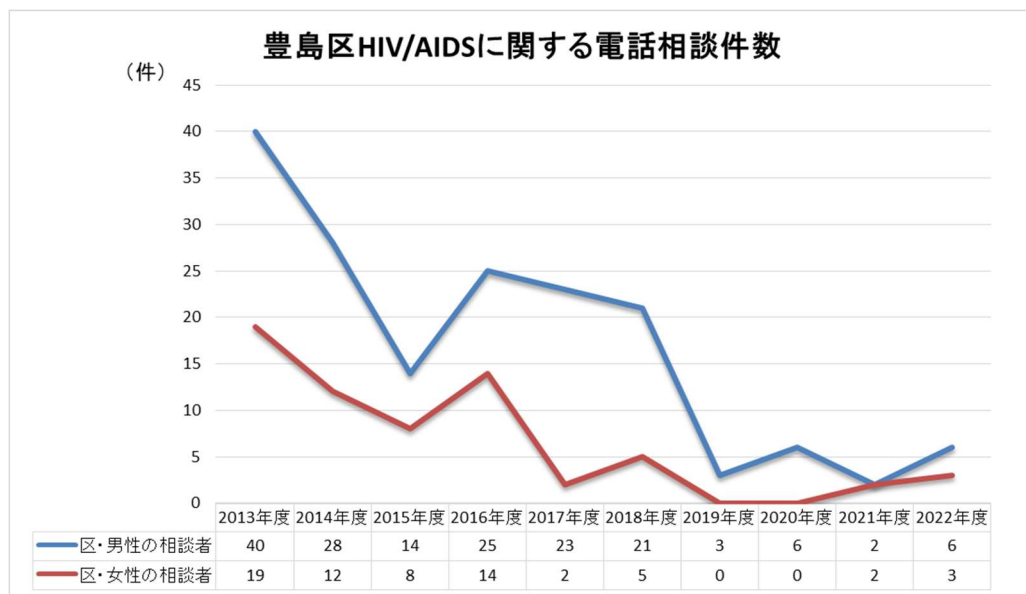
### ① HIV検査の受検者数と陽性者数

※( )内は2021年度

検査種別	受検者数		陽性者数	
	男	女	男	女
HIV通常	267(131)	127(62)	1(1)	0(0)
HIV即日 ※2021年度で終了	-(28)	-(15)	-(0)	-(0)



### ② HIV/AIDS 電話相談状況



### ③ 性感染症検査の受検者数と陽性者数

HIV 通常検査時に、希望者には性感染症検査として、梅毒・クラミジア・淋病検査を同時実施している。

※（ ）内は 2021 年度

検査種別	受検者数(件)		陽性者数(件)	
	男	女	男	女
梅毒	266(156)	126(76)	7(3)	1(0)
クラミジア	257(127)	125(61)	11(2)	11(4)
淋病	260(127)	123(61)	1(1)	2(0)

### ④ HIV 感染者の療養支援



HIV 感染症は、治療の進歩により「完治はしないが長期に療養を必要とする疾患」となってきました。「長期療養時代」とも言われる現在、患者さんの QOL（生活の質）を保ちながら継続治療を支援していくことが求められています。

HIV 感染の告知をされた方の精神的ショックは大きく、ひとりで乗り越えていくには困難な場面も多い。豊島区では、継続的な医療相談やピアグループとの関わり等を通し、悩みを一人で抱え込まないよう療養支援をしている。

また、HIV 感染者は「ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害」として障害者に認定され、身体障害者手帳を取得すると、ホームヘルパーの派遣や医療費の助成、在宅福祉サービス等を受けることができる。

### 3. 参考資料

#### ・ AIDS 知ろう館・ 鬼子母神 plus

2015年5月に池袋保健所1階に、女性のライフプラン形成や若者全体への健康支援に関する情報発信スペース「鬼子母神 plus」が開設され、AIDS 知ろう館に併設された。

妊娠・出産・子育て情報の他、若年者の健康、がん予防、歯科・栄養情報、HIV/AIDS、LGBTQ+、感染症、メンタルヘルス等についての掲示や、書籍を配置し情報発信している。また、季節毎のテーマに沿った展示を行っている。

2019年10月15日から、池袋保健所仮移転に伴い、AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus も保健所内1階に仮移転した。

事業協力：（株）ベネッセ



写真：AIDS 知ろう館・鬼子母神 plus

MEMO



TOSHIMA  
CITY



Rainbow Flag は  
LGBTQ+（多様な性のあり方）  
のシンボルです